

経営比較分析表（令和3年度決算）

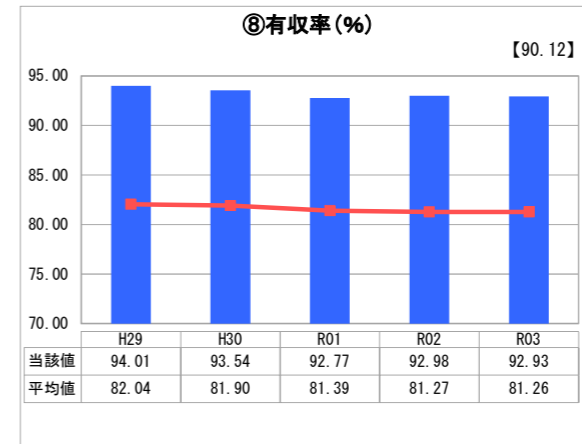
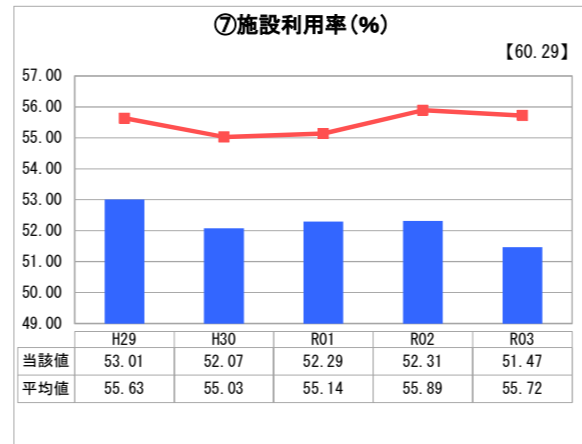
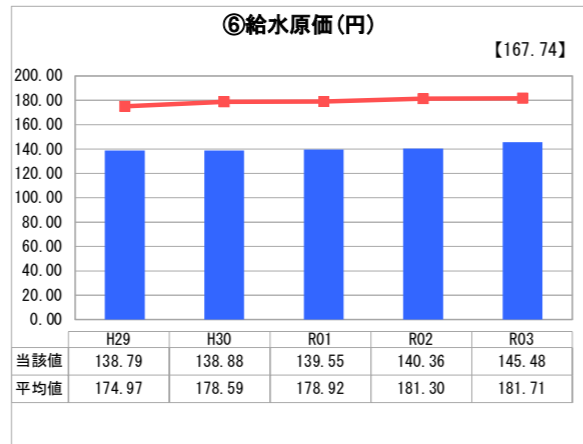
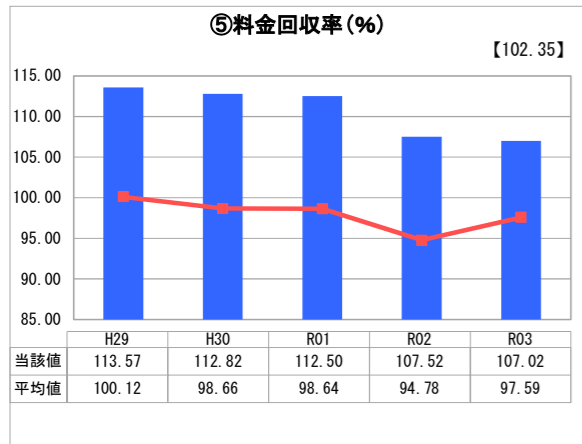
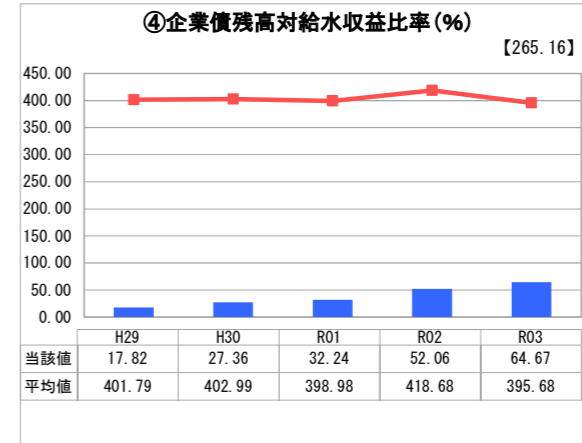
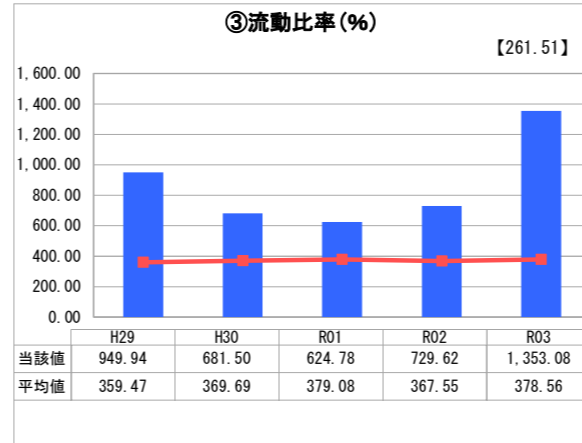
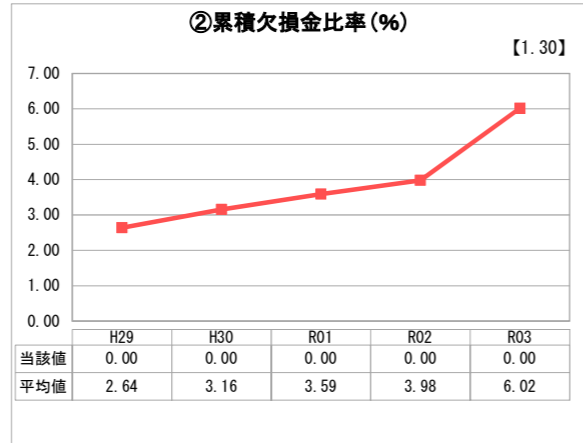
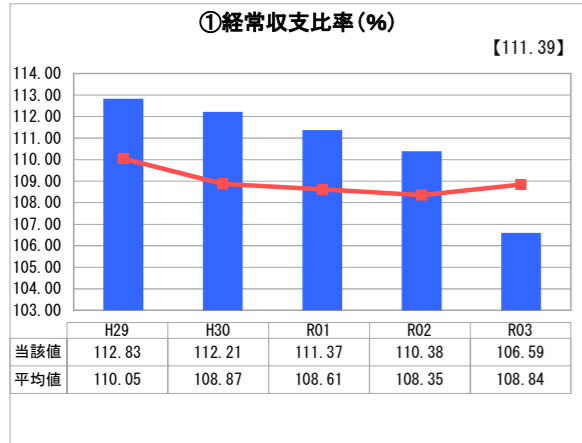
愛知県 美浜町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.81	99.80	2,650	

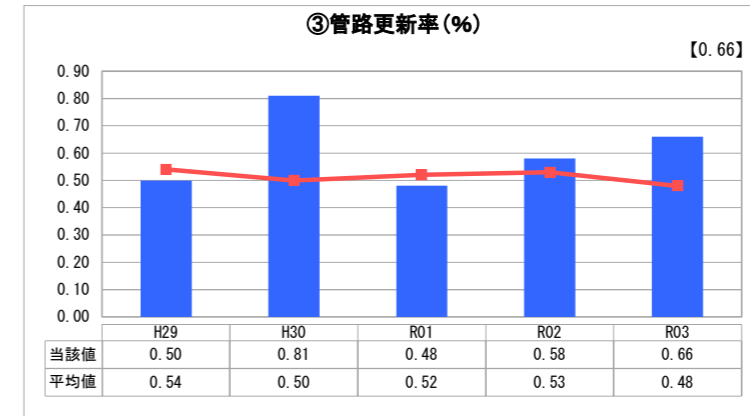
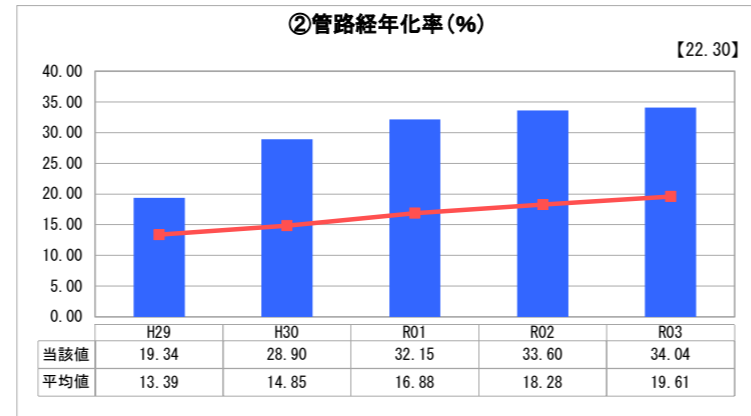
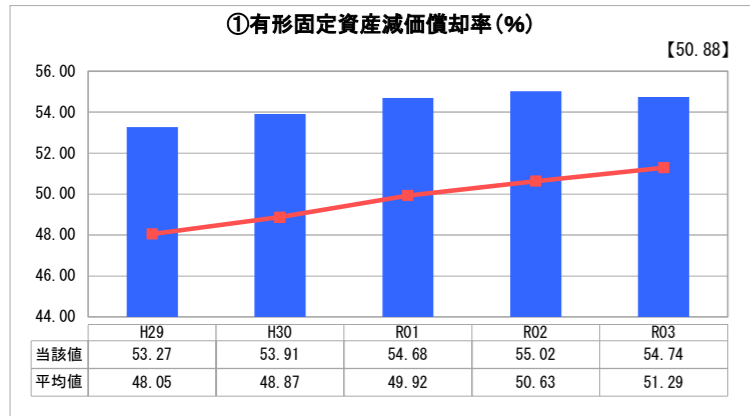
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,367	46.20	462.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,253	46.20	460.02

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%以上であり良好だが昨年度より大きく減少している。これは給水人口や大口使用者の減少に伴い給水収益が減少しているからである。また、② 累積欠損金が発生していないため0%となっているが、給水人口等の減少に伴い今後の数値が悪化する事も考えられる。③ の流動比率は年度内に水道管工事等の支払いを終え未払金が減少したため、623.46%と大幅に増加している。④ 企業債残高対給水収益比率は平均と比べるとかなり低いが徐々に増加している。平成30年度より重要給水施設配水管布設工事でお朽した古い管を耐震管へ更新する工事を行うために毎年度新規起債をしている。また、給水人口や大口使用者の減少に伴い給水収益が減少しているため比率は今後も増加すると思われる。⑤ 料金回収率は100%以上であるため給水費用が給水収益で賄えているが、毎年度減少しているため良好とはいえない。⑥ 給水原価は平均と比べるとかなり低いが、給水人口の減少や水道管の老朽化に伴う維持管理費の増加に伴い今後も高くなる見込みである。⑦ 施設利用率及び⑧ 有収率は横ばい状態だが減少傾向である。⑦ 施設利用率に関しては、人口減少等により配水量が減少しているため、配水量の見直しが必要になる。また、⑧ 有収率は平均と比べると高いが、今後も継続して漏水調査や老朽管の布設替工事を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率及び② 管路経年化率は平均より高いが、これは法定耐用年数を経過した資産や管路の老朽化割合が進んでいるからである。③ 管路更新率は重要給水施設配水管耐震工事を行っているため徐々に増加している。更新は行っているが、管路延長が短く経年経過管が増えているため② 管路経年化率は年々増加している。

全体総括

経営指標より、給水収益が年々減少傾向にあるが単年で見ると比較的安定した経営状態である。しかし、企業債残高対給水収益比率で平均より大きく下回っていることから投資不足であることがわかる。そのため今後も継続して老朽管の更新を行っていく必要がある。現在の料金体系では給水収益も減少していき経営悪化となる可能性が高いため、起債の増加とともに令和6年度から料金体系の更新を行う。収支バランス、投資バランスを総合的にまとめた経営戦略を平成30年度に策定をしたため、その計画に基づき安定した事業の経営を図っていく。しかし、起債額や給水収益の増減により経営戦略の見直しを定期的に行い常に安定した経営状態を保つ必要がある。経営戦略策定当初は10年後の見直しを設定していたが、環境の変化を適時に反映するため見直しの間隔を5年程度とし新たな経営健全化に係る取組が具体化した場合においてはその内容を追加し、投資・財政計画に反映させる予定である。